



貝の切断標本

成長する螺旋建築 自然界の建築家たち

建築博物教室 第20回 公開ギャラリーセミナー

貝のアーキテクチャ

佐々木猛智 (東京大学総合研究博物館 准教授/動物分類学、古生物学)

日時：2020年1月18日(土) 13:30~15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「貝の建築学」展示室

入場：無料 (事前申込不要)

貝のアーキテクチャ

佐々木 猛智



(a)



(b)



(c)



(d)



(e)

- (a) ソデカワニナ / *Faunus ater* / Pachychilidae
- (b) ナガタケノコカニモリ / *Rhinochlamys fasciata* / Cerithiidae
- (c) ナスミノムシ / *Vexillum caffrum* / Costellariidae
- (d) マルエゾボラ / *Neptunea amianta* / Buccinidae
- (e) トウコオロギ / *Cymbiola vespertilio* / Volutidae

螺旋は生物が作り出す不思議な構造のひとつである。その代表例が巻貝であり、極めて規則的に成長する。貝は貝殻を自ら形成し、その中で暮らしている。そのため、貝殻は貝の建築物と見なすことができる。貝殻を高倍率で拡大すれば、無数の結晶が規則正しく配列する様子が観察され、貝は煉瓦やブロックに相当する結晶を積み重ねながら貝殻を創り上げていることが分かる。ミクロな結晶を成長させつつ貝殻全体の形を制御する機構は謎であり、自然の驚異である。



佐々木猛智(ささき たけのり)

1997 博士(理学) 東京大学理学系研究科、2008 東京大学総合研究博物館・准教授。

専門は、動物分類学、古生物学、比較解剖学です。主に軟体動物(貝類)に注目して、種の多様性、ボディプランの多様性、生息環境の多様性、化石記録の4つ視点から研究しています。形の比較を通じて、生物の形態の意味と成り立ちを理解することが目標としている。

貝の博物誌。2002 年。東京大学総合研究博物館

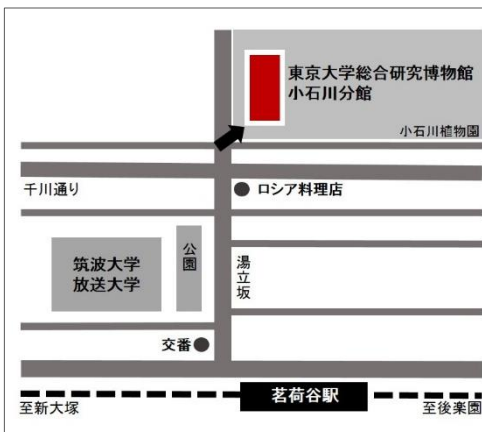
寿司ネタの自然史。2003 年。NHK 出版(分担執筆)

貝類学 Natural history . 2010 年。東京大学出版会

日本近海産貝類図鑑(第二版)。2017 年。東海大学出版会(分担執筆)



ヤナギンボリダカラ / *Luria isabella* / Cypraeidae



東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山 3-7-1
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間: 10:00-16:30 (入館 16:00 まで)

入館料: 無料

休館日: 月・火・水曜日

(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス: 地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩 8 分

<http://www.um.utokyo.ac.jp/architectonica/index.html>

建築博物館とは?

「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ

KOISHIKAWA Annex.

UMUT

東京大学総合研究博物館小石川分館